

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2774003301		
法人名	有限会社アミティケアサービス		
事業所名	グループホームアミティ3号館		
所在地	豊中市箕輪2丁目11-10		
自己評価作成日	平成 24年 3月 1日	評価結果市町村受理日	平成 24年 5月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2774003301&SCD=320&PCD=27
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 24年 4月 25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念の『その人らしさを大切に住み慣れた町で仲良く「ゆったり」、「豊かに」、「楽しい」生活を』を基に、四季を感じていただけるように季節行事を充実させ、誕生会、節分の巻きずし作り、お彼岸のおはぎ作り、お花見会、バーベキューなど家族様も一緒に楽しんで頂けるように努めています。昨年は旅行が趣味の方々温泉一泊旅行を楽しんで頂きました。生活面では出来る限り自立した生活を送って頂けるように、入居者様の「出来ること」、「出来ないこと」を見極め、入居者様が不安や混乱がなく過ごしていただけるように努めています。また医療連携で早期発見、早期対応に心がけ入居者様や家族様に安心して生活していただけるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護事業に真摯に取り組む地元出身の代表者が、自ら所有する土地に2つ目のグループホームを開設して7年目を迎えます。ホームは落ち着いた住宅街にあり、代表者が育った馴染みの地域でもあるため、運営や行事について地域の情報や協力が得られ、近隣住民との良い関係を築いています。職員は各利用者の思いを大切に、利用者本位に各自のリズムを守りながら、利用者の要望を優先する支援を実践しています。職員は家庭的な雰囲気の中でより生き生きと暮らせるよう楽しみごとを引き出すケアを目指しています。利用者はチームワークの良い職員同士の連携に支えられて、明るい表情で過ごしています。家族には利用者の様子が分かるよう、大きな写真を添付した「アミティ通信」を個人別に作成し、安心も届けて喜ばれています。代表者や管理者、全職員が協力して良いケアが提供できるよう、日々前向きに独自の工夫を重ねており、法人独自の書式を考案しています。「介護サービス計画表」に連動したケア記録、会議録、一覧できる個別の年間の支援経過記録等は、簡単に読み取りやすい工夫があり、ケアへの共通認識を得ることができます。また、職員は研修・ミニケアレポートの提出等、自己研鑽に励んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成して、分りやすく玄関ホール及び更衣室、事務所に掲示し、事業計画でスタッフにも周知するようになっている。会議やミーティング時などにも確認をしている。	「その人らしさを大切に住み慣れた街で仲良く、ゆったり、豊かに楽しい生活を」をホームの理念として定めています。玄関を入った正面の壁面に、地元の家書によって書かれた理念を大きな額に掲示し、訪問者にもホームの思いを心にとめてもらえる工夫をしています。事務所には理念と共に今月のケア目標を掲げ、(4月は)「午後に散歩の時間を作り、気分転換して頂きましょう」を掲示しています。職員は心にとめて、日々利用者が安心して暮らせるよう支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており行事(運動会・敬老会・夏祭り)への参加や近くの公園へ出かけたりしている。月に1回は近隣の小学生との交流会を行い、入居者様の楽しみとなっている。また、代表が自治会の役員を勤めており、職員が老人会の世話役として地域との交流を図っている。	ホームは代表者が育った地元に着ち、まず、地域住民との交流を大切に考えています。散歩に出かける時には地域住民と挨拶を交わします。隣地のデイサービスを利用する方とも馴染みになります。自治会に加入しており、地域の情報を得て、利用者は盆踊り・地域の運動会や敬老会・ふれあいサロン等の行事に参加しています。秋祭りの子供太鼓がホーム前を通る時には、応援をしてお祝儀を渡します。中学生の体験学習や、小学校の学童保育の児童の訪問を受け入れています。救急救命資格を持つ職員が多くいることから、「市民救命サポーター・ステーション」の指定を受けています。「子ども110番」の表示もしてあり、地域での役割を担っています。ボランティアの訪問もあり、クリスマス会には地域住民の方がサンタクロースに扮装して参加してもらいました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	認知症について、地域民生委員の方や住民の方の相談を受けたり、姉妹ホームのアミティ豊中と共同で、地域の方々が参加できる喫茶コーナーを設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、外部評価結果報告及びホームの取り組み、また出席者の意見交換を行いサービス向上に活かしている。年に6回程度のペースで行なっています。また適宜ホームの問題点などについて各専門家から助言をいただく場として活用している。	23年度の運営推進会議は2カ月に1回開催しました。会議は、本部のある系列のグループホームの応接室で開催しています。地域住民代表者・知見者・利用者・利用者家族・市の担当課職員・地域包括支援センター職員の参加を得ています。2カ月間の行事報告、利用者の状況・ケア対策について報告します。今後の行事予定では、系列のグループホームで開催する「アミティ喫茶」の時に、「認知症サポーター養成講習」を同時開催することも含め、参加者に近隣の高齢者に参加を呼びかけてもらうよう依頼しました。また、ホームの災害時における「入居者避難支援」についても検討内容を伝え、地域住民の連携支援を依頼しています。地域包括支援センター職員は主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士等、交替で参加を得ており、専門分野の助言を受けています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>豊中市事業者連絡会に加盟し、行政の通達や情報を聞く会合や地域福祉ネットワーク会議及び地域密着サービス部会等の会議に積極的に参加している。月1度の介護相談員の来訪を受け、サービス向上における助言を受けたり、意見交換を行なっている。豊中市子供110番や市民救命サポートステーション施設として市との連携に取り組んでいる。</p>	<p>今年から運営推進会議の開催日を年間で取り決め、市の担当課職員も出席しやすいよう日程を定めた結果、毎回市の担当課職員の参加を得ています。会議では、豊中市が中核都市に移行することに伴う関連行政機関として、「福祉指導監査室」が新たに設置される経過や、業務内容についての説明を聴く機会にもなっています。市の担当課へは外部評価報告書や運営推進会議の議事録を届けたり、毎月の利用状況報告・介護保険の更新申請時や事故報告書の提出時に担当窓口を訪ね、常に気軽に相談できる関係作りをしています。市主催の『生き生き長寿フェア』に毎年参加しています。市社協主催のネットワーク会議や、地域密着型サービス連絡会にも参加して、交流・相談しています。月1回介護相談員の訪問を受けています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束については、基本的にはしていないがやむを得ない場合はご家族様などに了解をとるような体制がとられている。玄関はボタン式電子ロック錠ですが、操作の出来る入居者様はご自分で開錠を行い、職員の同行で外出をされている。</p>	<p>現在、身体拘束の事例はありません。身体拘束に関するマニュアルを作成し、職員には内部研修等を実施して、拘束のないケアに取り組んでいます。1階の玄関は電子ロックですが、中からは、押しボタン、または手動で開錠することもできます。2階入口は、職員の手薄な時間帯や、利用者の帰宅願望が強い場合など、状況により施錠することがあります。利用者には施錠による不安や閉塞感を与えないよう工夫し、外出願望のある利用者には付き添いや見守りで対応しています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日常的に管理者やリーダーが職員と話し合い、またホーム内研修等を行っている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>特に成年後見制度については、施設長やケアマネージャーは見識を深めるように努力している。研修会には積極的に参加しており、必要な入居者様には、司法書士等が相談に乗り、積極的に活用している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居契約の際は、必ずご家族様に重要事項説明書をもとに丁寧に説明するようにしており、説明書には図表を取り入れ簡素化するなどの工夫をしている。質問等十分受け、納得いただいた上で署名・押印をいただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書・意見箱を設置している。面会時に管理者や職員が意見・要望を聞き対応をさせて頂いている。また公的苦情受付機関や介護相談員来所日などをご家族様にお知らせして、相談、苦情解決の第3者窓口を紹介している。</p>	<p>職員は日々のコミュニケーションの中で、利用者の要望や意見をくみ取り、運営に反映させています。家族の来訪時には気軽に話せるよう、職員は対応しています。利用者の健康や安全、必要な物品購入等については、その都度家族へ電話で報告し、家族の要望を伺います。家族との電話連絡については、個人別の連絡記録帳に記録し、職員は内容を共有しています。玄関にご意見箱を設置し、記入しやすいようにアンケート形式の用紙も用意してありますが、家族は口頭で直接要望等を伝えています。また、家族には毎月、個人別「アミティ通信」として、利用者の暮らしぶりや行事での様子がわかるよう大きな写真を添付し、その月の介護目標、医療受診予定・行事予定等を記載した報告書を送付し、連携を保っています。また、予定欄には介護相談員の来訪日も記載しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>代表者とは、毎日面談又は電話連絡を取り、意見交換ができる機会を作っている。またリーダー、サブリーダーが職員の意見や提案をまとめ代表者や管理者と話し合う機会を設けている。</p>	<p>管理者は日常的に職員とのコミュニケーションの機会を多く作り、なんでも話しやすい環境作りに配慮しています。日々の申し送り時やケア会議でも意見交換を行い、職員の提案等は、毎月のアミティ合同の運営会議で検討し、運営に反映させています。また、管理者は計画作成担当者を兼務しており、居室担当者と介護計画作成やモニタリングについても、随時意見交換する事ができています。代表者はホームの項目別事業計画を職員に提示し、年初と期末にそれぞれ自己評価をしてもらい、運営に役立てたいという思いから実施しています。管理者は、職員に外部研修を受ける情報を掲示し、職員がレベルアップできるよう支援しています。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>代表者はスタッフと話し合いの機会を作り、各自の要望やストレスの軽減等改善に努めている。また事業所の研修以外にスタッフの要望する研修参加等の配慮を行っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内研修(アミティミニケアレポート)を月に一度行っている。 外部研修はスタッフのレベルに合わせて参加している。参加者は内部研修または回覧研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業者連絡会、サービス部会、地域のグループホームの会合等参加して意見交換を行いホームのサービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまでの間、出来る限り頻回に訪問し、状況を把握するよう努めており、入居前からこれらの状況を施設スタッフにも共有してもらうようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にご本人様やご家族様が困っていることや、求めていることは、おおむねは初回の段階で把握しているが、サービス導入後もより密に傾聴する機会を設け、信頼関係構築の努力を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の電話相談時などに、おおむねの相談状況を聞かせていただき、当ホームの限界をお伝えし、納得いただいた上で、他のサービスも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る方には、日常生活の中で、家事などに参加していただき、昔ながらの日常生活の知恵などを教えてもらっている。また昔ながらの雑学やことわざ、方言、日本ならではの作法など教わる機会もあり、お互い学びあい支えあう関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時に現在の状況やご本人様の意向等の意見交換を行い、今後のケアの方針を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご本人様が馴染みとしている飲食店に行っていただくようにしており、従来の関係が途切れないよう支援している。また、遠距離や旅行などこちらで不可能な場合でも、ご家族様が可能な場合は、行なっていただくよう励行している。</p>	<p>入居時に家族から、本人の生活歴や交友歴等を聴き取り、記録しています。自宅の近所に住む友人の来訪もあります。ホームに来訪した遠縁の方が、自分宅に連れて帰られることもあります。家族と共に、馴染みの美容院や長年ひいきにしているすし屋にも行きます。手作りの絵手紙やお礼状を書く手伝いもしています。馴染みの人や場所との関係の継続を支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様間で気の合う者同士を配慮した、席の配置や、散歩に行く際のグループなどを配慮している。共通の趣味の方でカラオケ、ガーデニング、手芸等行っており、入居者様同士の関係作りに努めている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>在宅復帰をされた方には近況を尋ね電話連絡を入れ、入院治療等の理由で退所された方に対しては見舞いに行くなどして、ご本人様の様態やご家族様の相談にも傾聴し、継続的な関りを大切にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の思いや暮らし方をたずね、それに沿って支援できるよう心がけている。ご本人様から聴取が困難な場合は、ご家族様より生活歴や趣味等を聞き、ご本人様に楽しんで頂ける様に心がけている。	入居時には、利用者本人や家族から身体状況・生活習慣等を聴き取って記録し、職員間で共有しています。入居後は、利用者や家族から得た暮らしの希望・意向を聴き取り、個別の生活歴追記シートに「訴えや行動、職員が掛けた言葉・行為、相手の感じたこと、職員が感じたこと、計画」等を職員は記録し、情報を共有しています。ケア会議や日々のケアで追記シートを活用しています。食事やおやつ作り等の希望についても定期的に聞いています。個別の希望に沿うためには、利用者の誕生日プレゼントとして、外食や手芸用品を購入する等、利用者の希望を叶える機会にする場合もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人様やご家族様に生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等を情報収集し、フェイスシートに記録し、スタッフ間で情報を共有している。ホーム内での生活の中で知り得た情報については、追記シートに記録し、スタッフ間で把握するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個別にスタッフ担当者を割り当て、入居者様個人については担当スタッフが総合的に把握するよう努めている。またその日1日の経過についての情報は、申し送り時間を別に設け、スタッフ間で漏れのないように申し送りノートに記載、また口頭での申し送りを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、ご本人様やご家族様からの情報収集をした上で、フェイスシート、追記シートに記録し、これを基にスタッフ間でのケア会議を開き、作成している。作成した介護計画は、ご本人様やご家族様に説明した上で、署名押印をもらっている。</p>	<p>入居時の情報を基に「暫定初期計画」を作成し、家族にも説明をしています。1ヵ月後に家族の意見も聴き、計画の見直しをします。基本的には3ヵ月毎にモニタリングを実施し、カンファレンスの上、介護計画の見直しを行い、家族にも説明しています。見直しの際に、家族へ「ケアプランの変更について」の用紙を送付し、利用者が日々快適に過ごせるよう、要望を取り入れて介護計画を立てる意向を伝えています。家族に次回のケアプラン会議への参加を促しています。ホーム独自の書式による利用者毎の「介護サービス計画表」に介護目標・個別の日常生活介護サービス内容・その他サービス内容・モニタリングを記録して職員は共有しており、家族にも説明を行い、サインを得ています。利用者の状況に変化があった場合は、随時ケア会議を行い、介護計画を見直しています。また、職員はホーム独自の書式を活用し、日々のケア状況を共有しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケース記録・追記シート・申し送りノートに日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を記録し、情報をスタッフ間で共有している。これを基にケア会議で情報を出し合い、介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を生かして、かかりつけ医の指導を基本とし、入居者様にとって負担となるような入院などは回避している。また早期退院も可能な限り受け入れている。通院などでは、ご家族様の意向など確認した上で、職員や管理者が付き添い出かけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや敬老のつどい、体育祭等中学校や小学校に出向き参加している。その他地域の季節行事や公民館の催し物等民生委員、介護相談委員、地域住民の方から声をかけていただき参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族様の要望により、かかりつけ医に受診できるよう支援している。近隣の医療機関とは定期的な往診機会もあり、緊急時対応も体制が整備されている。	毎月1回、協力医療機関の医師より定期検診を受けています。入居以前からかかりつけの医療機関より、引き続き医療を受けている利用者は、家族が付き添って受診しますが、要望があれば、ホーム職員が受診に付き添う場合もあります。必要な利用者には協力歯科医師の検診・口腔ケアを受診できるよう支援しています。日常では、職員として配置されている看護師からは適切な看護を受けています。また、非常勤の理学療法士からも必要な利用者にはリハビリの指導を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員との連絡ノートを作成している。その他にも、口頭での指示、実際の手技を見て看護職員がいない場合でも、出来る範囲で支援している。受診の際も入居者様本人の状態を看護職員に伝え、出来る限り看護職も立会い受診している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>主治医と連絡を密にとり、症状が悪化しないように早期発見、早期対応を心がけ、入院された場合はご家族様や医療関係者と相談した上で早期退院に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>基本的に病院に搬送する時期について、ご家族様、かかりつけ医、看護職員と話し合いホーム内で情報を共有している。また状態の変化があるごとに、話し合い支援につなげている。</p>	<p>利用者が入院された場合は、退院時に「ホームでの介護が可能か」「経口摂取が可能か」について、主治医・看護師・家族を交えて検討し、ホームでの生活を継続できるかどうかについて決めます。提携医療機関とはオンコール体制を取っています。現在は「看取りの指針」は特に定めていない状況です。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員はほぼ全員普通救命講習を受講しており、市民救命サポーター・ステーションに登録している。定期的にミニケアレポート等で緊急時の対応を再確認している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害対策委員会においてマニュアルを作成し、年2回避難訓練を実施しており、消防署の講習を受講している。</p> <p>9月1日の防災の日に、入居者様の食事形態に合わせ非常食を試食していただいている。3月の運営推進会議において避難支援協力者等の体制づくりを進めている。</p>	<p>ホーム独自の「災害対策マニュアル」を作成し、職員に周知しています。職員と自力歩行可能な利用者は年2回、避難訓練を実施しています。しかし、消防署員立会いの下、車イスの利用者も含めた避難訓練は実施できていない状況です。非常災害時の「緊急連絡網」については、職員がホームへ緊急対応できる者の通勤時間・家庭状況を把握し、作成しています。法人内の「消防・防災会議」では夜間対応についても、職員及びその家族や利用者家族にも徒歩や自転車でホームに来ることができる方に協力を要請するよう提案をしています。非常災害時に向けての水・非常食・備品を備蓄しています。「防災食試食会」では、備蓄食品を実際に利用者にも試食してもらい、好評であった非常食を備蓄する等の工夫をしています。職員は消防署の救急救命講習を受講しており、「市民救命サポーター・ステーション」として登録しています。</p>	<p>年1回は消防署員指導のもと、消防避難訓練を実施することが望まれます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に接する態度は、勉強会などにおいても意識付けを徹底しているが、問題点などが出来た場合は、管理者がスタッフを指導している。また、記録などについてはプライバシー保護にも配慮し、イニシャルにするなど工夫している。ご家族様や外来者にも個人情報情報が漏れないよう配慮している。	「利用者のプライバシーの尊重・保護」に関するマニュアルを作成し、職員には内部研修等で周知しています。職員は常に利用者一人ひとりの人格を尊重、誇りやプライバシーを損ねないように留意しています。職員の言葉かけや態度は明るく丁寧で、優しい雰囲気です。職員は入職時に「個人情報保護」に関する誓約書を提出しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や食事のペースや時間、その日の服装、外出の行き先などできる限り希望に添えるように努力している。また、選択肢を設けその中で決定していただくような工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	運営理念の「その人らしさを大切に」を念頭に置き日々の業務を優先するのではなく入居者様の希望を優先し、日常生活の支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の好みを優先できるように支援している。施設のほうでも2ヶ月に1回程度のペースで訪問理・美容を取り入れ、本人の希望に応じてパーマや毛染などそえる様な体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は3食ホームで調理し、出来たての食事をその方の適量を提供している。入居者様に調理、味見、盛り付け、配膳、テーブル拭き等担当して頂き一緒に食事を楽しんでいる。箸や茶碗、湯のみ等入居者の馴染みの物を使用している。	食事は3食共職員が調理しています。食材は業者から購入しています。業者の管理栄養士が立てた献立表を参考に、利用者の好みに合わせた献立に変更する等の工夫をしています。利用者のADL(日常生活動作)に合わせて、調理の下拵え・味見・盛り付け・配膳・下膳・テーブル拭き・食器拭き等を行っていきます。職員も共にテーブルに付き、見守り介助の必要な方にはさり気なくサポートし、談笑しながら同じ物を食べています。食事のアンケートを取り、希望を反映した昼食バイキングは利用者から好評で、家族参加も得て、今年度は年2回の実施を予定しています。手作りおやつは利用者の希望に合わせて、牛乳ゼリーは寒天を使って作ります。おはぎは皆で作ります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量、食事量はケアチェック表に記載し、職員全員で把握するようにしている。食事はその方に合った食事形態での提供を行い、腎疾患などで水分や食事に制限がある方は特に注意している。水分量の少ない方にはお好きな飲み物やゼリー等を随時提供させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時はうがい、食後、就寝時等随時、口腔状態に合ったブラシを使用し歯磨きをしていただいている。歯磨きが困難な方に対しては口腔内清掃を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により入居者様の排泄リズムを把握し声かけを行っている。おむつの方も表情や仕草などによりできる限りトイレで排泄して頂けるように支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、個別支援を行っています。プライバシーを尊重しながら、さり気なく自立に向けて支援ができるよう職員間で共有しています。ケアチェック表に排泄の状況をタイムテーブルで表わし、1日の排泄状況を職員が共有しやすく工夫しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘に対し、すぐに下剤等を使用するのではなく、水分補給や、食物の工夫、腹部マッサージ、ホットパック、運動などに努め、それでも困難な時は、医師の処方した薬を飲んでいただいている。薬も画一的に飲むのではなく、薬の量や効果など個人になるべく合う対応を模索するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	浴室前にはのれん、入浴札を掛けて入浴者は事前に順番がわかるよう表示を行い、一緒に衣類の準備をさせていただいている。順番に不公平がないように配慮し、入浴日以外でも希望があれば入浴していただいている。	基本的には週3回の入浴を実施しています。入浴順番は公平になるよう配慮し、利用者にも判るように掲示しています。気分によって入浴を好まれない場合は無理強いせず、清拭・足浴・温水洗浄便座で陰部洗浄・着替えをして清潔を保ちます。入浴を好まない利用者には、決まった曜日でなくても、気分が変れば臨機応変に入浴してもらいます。季節の「菖蒲湯」や「柚子湯」も楽しんでもらいます。ADL(日常生活動作)低下により普通浴槽に入れない場合は、同敷地内にある別法人のデイサービスの特殊浴槽の活用ができるよう、事業所には同意を得ることができました。現在シャワー浴の利用者にも、特殊浴槽の利用について説明していますが、現在は家族の意向も受けて、体力が回復するまで、シャワー浴を実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の外出状況や、疲労の度合い、今までの生活習慣など配慮し、眠れるように配慮している。眠れない時はホットミルクの提供や傾聴など眠れるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>症状、服薬に関しては申し送りノートに記載し、薬を組む者、確認する者、服薬支援する者は他の職員にも声をかけ確認をした後、入居者様と一緒に確認し、複数段階で行うようにしている。また入居者様全員の内服薬に関しては、写真入で作用、副作用を確認できるファイルを作成し、職員全体で周知するようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様個人の得意な分野の家事や裁縫等の手伝いをお願いしている。趣味で手芸やカラオケ・ガーデニングをされていた方はアミティクラブ等へ参加していただいている。また日々の中で個別に編み物や手紙等楽しめるように支援をしている。ティータイムの飲み物等はメニューより入居者様に選んでいただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気やご本人様の体調、要望などに応じて、散歩に出かけている。お店におやつを買いに出かけたり、ご家族様と外食される方もいる。外出記録をもとに偏らないように配慮している。	暖かい時期にはホームの近くを川岸まで散歩します。徒歩10分程の所にある同系列のグループホームで開催される「金曜クラブ」や「アミティ喫茶」に参加します。地域行事への参加や、ホームの外出行事も実施しています。今年度は他のグループホームと一緒に1泊旅行を実施しました。4月からは、職員の勤務体制を一部変更し、遅出の職員が「毎日午後に、利用者の方一人には散歩・外気浴していただく」ことを目標にして、実施しています。一人ずつだけでなく、気の合う利用者同士で散歩に出かけることもあります。体調により、散歩に出かけられない場合には、ホームの玄関先の花壇に水やりをしたり、新聞を取りに行ったり、隣のデイサービスの利用者と挨拶を交わしたり、外気浴をしています。家族と共に外食やお墓参りに出かけることもあります。また、家族と泊りがけで旅行に出かけた方もいます。	活動表や年間の支援経過一覧の外出欄の外気浴も実施できている実績を記録してはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>毎月の小遣いの範囲で、入居者様個人の希望に応じてお金を使ってもらよう支援している。ご自身で管理可能な方には、ご自身で支払いなどしていただき、不可能な方にはこちらで支払いを代行するなど配慮している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話の使用が無理な入居者様は職員が取り次ぎを行っている。はがきや手紙等は文面や宛名はご自身で出来る範囲で作成していただき、無理な部分はこちらで支援させていただいている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、個別空間の音や光が漏れにくいような構造がなされている。また空間のあらゆるところに、季節に合った置物や花などを配置し、季節感を楽しめるように配慮している。入居者様の各居室の表札は、季節感を表現した手作りの貼り絵などを飾っており、入居者様やご家族様が鑑賞して楽しんでいる。	玄関には「五月人形」の段飾りが季節感を伝えていきます。階段の踊り場には大きなアートフラワーや蘭の鉢植えを置き、和やかな暖かい雰囲気を創っています。居室を囲む真ん中にリビング兼食堂があり、利用者は自室から出ると皆が集うリビングの様子がわかりません。テレビの前にゆったりくつろげるソファをコの字型に設置し、利用者同士が仲良く話し合える環境作りに配慮しています。ソファ横にはぬいぐるみ等を置いてあり、利用者を和ませています。食卓には季節の花が活けてあり、リビングには見やすい手作りのカレンダーが壁面に掲示してあります。また、行事やお誕生日会の写真等を掲示しています。「金曜クラブ」の予定もイラスト入りで掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には複数のテーブルやソファが置かれており、状況によって人の集まっているテーブルや人の少ないテーブル等自由に移動できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や寝具等をできるだけ持参していただき、ご本人様が居心地良く生活できるよう配慮している。	それぞれの居室入口には、利用者職員が手作りした貼り絵で装飾した表札が掛けてあります。居室には利用者が自宅で使い慣れた家具・家族の写真・手作りの作品・好みの小物やぬいぐるみ等、馴染みの物や生活用品を持ち込んでもらい、住み慣れた生活空間の継続を保てるよう配慮しています。居室の壁面には、職員が手作りした誕生日のお祝いメッセージを掲示しています。カラオケ大会の賞状や、スポーツ大会の手づくりメダルを大事に掲示している方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室には、手作りの表札をかけ、トイレにも手作りの案内や札を作り、混乱しないように配慮している。		